

「つなぎ、創る・地域のプロジェクト」

第5次名護市総合計画 地域別計画

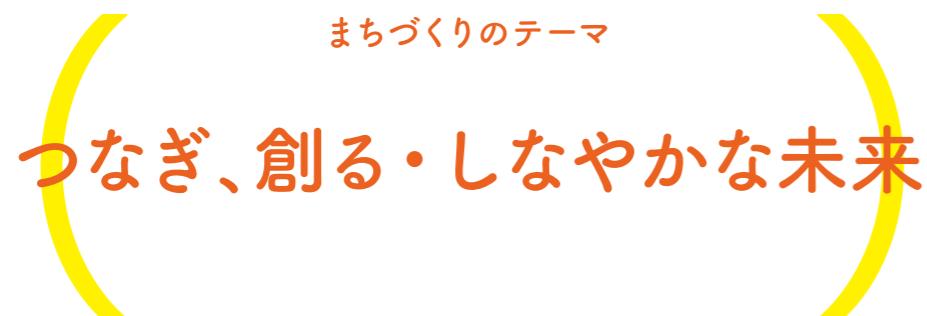


2020-2029

第5次名護市総合計画について

総合計画は、地方自治体がさまざまな活動を行う上で基礎となる計画であり、長期的なまちづくりの方針や将来像、その実現の手段などを総合的・体系的に示すもので、「基本構想」、「基本計画」、「地域別計画」、「実施計画」によって構成されています。また、名護市は2020年8月1日に市制50周年を迎えることから、第5次名護市総合計画は、これまでの50年を振り返り、これから50年を見据えた最初の10年の計画となります。

第5次名護市総合計画の策定においては、市民ヒアリングや地域別ワークショップ「よってたかってゆんたく」、市民アンケートなど、名護市に関わるたくさんの方々が参加し、計画づくりを進めました。



名護市のこれからまちづくりを進めるために、特に大切にしていきたいキーワードを「市民参加」や「つながり」とし、まちづくりのテーマを掲げました。これまでのまちづくりを受け「つなぎ」ながら、それぞれの主体、分野又は能力を「つなぎ」協働して、新しい時代の新しいまちづくり（未来）を進めていくことを「つなぎ、創る」と表現しています。また、これまで積み重ねた名護市の独自性や個性といった根幹を維持しながらも、急速に変化する時代に柔軟に対応していくことを「しなやか」と表現しています。

つなぎ、創る・地域のプロジェクト

地域別計画とは

名護市は、名護・羽地・屋部・久志・屋我地の5つの地域があり、魅力や特徴もさまざま、地域の特徴を活かした個性的な取組みもたくさんあります。そのような地域特性をいかし、多様な意見を計画づくりに反映していくために、ワークショップは地域別に開催しました。2018年11月から2019年5月にかけて計18回、計333名の市民が参加し地域や名護市の未来を考え話し合ってきました。その結果を基本構想、基本計画に反映したとともに、地域別計画では各地域が地域の在りたい姿を実現するため、地域別ワークショップ等で話し合った具体的な取組みの方向性等を地域別計画として取りまとめました。

こうしてまとめた地域別計画の取組みは、市民が主体となって、行政や民間、市内や市外を問わず、多くのみなさんの参画・協働によって実現を目指していくものです。

計画の構成

5つの地域ごとに以下の構成でまとめています。

地域の現況 地域の将来像 まちづくりの方向性 重点プロジェクト

計画のアクション

主体をつなぎ・創る

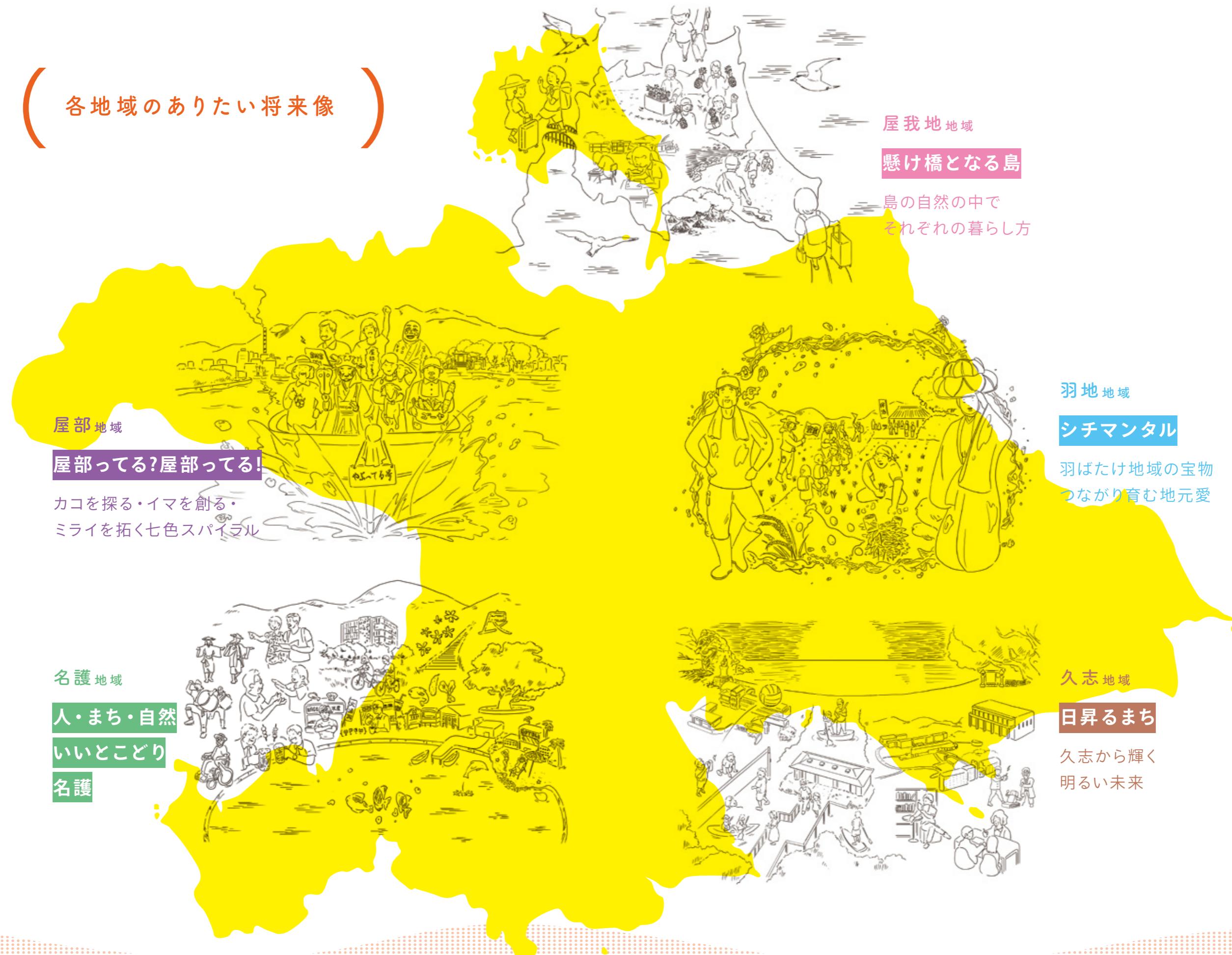
活動をつなぎ・創る

市民が主体となって、行政や民間、市内や市外を問わず、多くのみなさんの参画・協働によって実現を目指していきます。本計画を実行することで地域活動等の充実や広がり、話し合いのきっかけとします。

計画策定の流れ「よってたかってゆんたく」のとりくみ



(各地域のありたい将来像)



1 地域の現況

名護地域は、3万5千あまりの人口を有し（市内の約6割）、本島北部・名護市を中心地として、官公庁や企業が多く集まっている地域です。一方、名護岳や名護湾など豊かな自然とともに、組踊の舞台「許田の手水」や「轟の滝」、「名護城」など景勝地を有しています。また名水を利用したオリオンビール工場や国の重要文化財に指定されている津嘉山酒造所、市場や社交街など商業・サービス業等多様な業種が盛んな地域となっています。15区の区平均加入率は3割ながら、福祉や伝統芸能、子ども達の健全育成などのコミュニティ機能を維持しています。一方で地域の二極化が進んでおり、市街地は人口が増加している一方、自治会加入率の低下が課題となっており、世富慶以南5区は自治会加入率が高い一方で少子高齢化、人口減少が課題となっています。

3 まちづくりの方向性

1 自然

地域のありたい姿

- 自然の大切さを学び安全に活用する
- 観光エリアを明確にして豊かな自然資源を保全・活用する

取組みの方向性

- 海岸の環境保全
- 環境や気候、海洋学のスクールの開催
- 海岸資源を活用したツーリズムの推進
- サンセットを楽しむ方法を考える
- 21世紀ビーチのさらなる活用

3 産業

地域のありたい姿

- 賑わいをうみだす市場・商店街・地域商店
- だれもが仕事を見つけやすいまち
- 観光客が何度も来たくなるようなまち

取組みの方向性

- 子育て世代が働きやすく輝ける環境づくり
- 市場・商店街・地域商店の魅力づくり
- 新たなチャレンジ・仕事を起こすサポート
- 外国人観光客に対応するルールを明確にする
- 観光客へのおもてなしをふれる地域づくり

2 交通環境

地域のありたい姿

- まちを気軽に巡れる環境づくり
- 免許返納後も移動しやすい環境の整備

取組みの方向性

- 新たな交通手段の開発
- イベント時の交通への対応

4 教育

地域のありたい姿

- 仕事につながる教育（キャリア教育）の充実
- 生涯にわたる学びのサポート
- 学校と地域の連携
- 地域への愛着づくり

取組みの方向性

- 地域のみんなで子どもを見守る
- 世界のウチナーンチュとの連携
- アスリート育成の強化

2 地域のありたい将来像

人・まち・自然
いいとこどり
名護



「まちの便利さは絶対必要だけど豊かな自然や人とのつながりも大事にしたい」
そんなあなたのわがままに応えられるのが名護地域です。目の前の名護湾、ふりかえれば緑豊かな山々、まちの中には地域に根付いた芸能文化もあり、生活を支えて余りある都市機能も備えています。自然との共生や地域のつながりなど現代社会に失われつつあるものを大切にしながら、時代の流れを汲み取り築き上げてきたこのライフスタイルこそ私たちの宝物となっています。これからも様々な課題に対応しつつ、10年後もたくましく発展し続けるまちを目指します。

5 くらし

地域のありたい姿

- 健康づくりの推進
- 多様性を認めて胸を張って夢を語れるまち
- 多様な世代が気軽にゆんたくできる場づくり
- 公民館の運営体制の充実

取組みの方向性

- 予防医療の推進
- 健康づくりが楽しくなる環境づくり
- 健康づくりの取組み連携
- 医療と教育機関の連携強化
- 高齢者が楽しめる場づくり
- 各医療機関の情報の見える化
- 高齢者対応のまちあるきツアーの開催
- 区単位での体力づくり
- 公民館を地域の交流拠点としての活用

6 人が集い笑いが絶えない賑やかまち

地域のありたい姿

- 交流から連携が生まれるまち

取組みの方向性

- 伝統を継承していくまち
- 雨の日でも楽しめる場づくり
- 移住者も含めみんなが参加でき楽しめる区づくり
- 地域にあるものを生かしたイベントづくり
- 市民参加型の食のイベントづくり
- 働き世代が交流できるイベント
- 学生が手料理を食べられる場づくり

1

背景

これからの「まちなか」の一つの方向性として、名護地域の住民や周辺地域の市民、さらには来訪者も含めた多様な人が集まることで、名護市の人材・情報・アイデアの集積地となり、ここで新たな楽しみやチャレンジできる取組みが生まれていく場としての役割が期待されます。新しいまちづくりの在り方を商工・観光・教育など様々な視点から考え、若い世代から高齢者まで、幅広い世代が楽しめるだけではなく、これらの人たちが自らまちなかで活動し、楽しさを生み出し、交流が生まれる場として「集う・参画するまちなか」へと変化させる必要があります。



具体的な取組みアイデア

- 子育て世代がチャレンジしやすい環境づくり
- 情報拠点を設置し、チャレンジするための方法やサポート情報を集約、見える化する
- 空き店舗を活用した、大学・高専と連携したスタートアップカフェや異業種交流を促す取組みを開催する
- 名護のまちなか独自のコンセプト設定し、まちなかに表現する
- 情報拠点を設置し、チャレンジするための方法やサポート情報を集約、見える化する

プロジェクトの概要

空き店舗を活用したカフェやレンタルオフィス、コワーキングスペース等の整備の充実、さらに、「チャレンジ」をテーマに若者が新しい事業を展開できるような取組み及び支援も進め、市民活動の場としてのまちなかの展開などにも取り組んでいき、人が集うまちなかへの方策に取り組みます。

効果

- 若者の活躍を応援することができる
- 若者が活躍できるまちは、まち全体の雰囲気を活きるものにできる

想定される連携先

- 地域経済部 ● 商工会・観光協会
- 通り会 ● 市営市場のテナント会 etc.

2

背景

西海岸エリアは夕日が美しい景勝地であり、名護夏祭りや夏季のビーチの利用などで若者を中心に多くの市民が利用する場所となっています。今後はさらに、市民の暮らしや学び、市民活動、さらには観光客との交流など、より日常的に市民・地域住民が訪れる海浜エリアとなる仕組みづくりが求められています。



プロジェクトの概要

ビーチの施設整備も進めつつ、市民会館が立地する特性を生かし、海辺における市民活動団体主体の参加型プログラムや学校と連携した環境学習、来訪者向けの環境保全型観光プログラム（「楽しく学べて仲間も増える一石二鳥ごみ拾い！」等）といった企画の展開など、様々な主体の参画によって守り・活かし・楽しむアクティビティを取り入れます。

効果

- 名護のビーチの魅力を市内外で再認識することができる
- ビーチクリーン活動など、レジャーだけでない活動にさまざまな人が関わる機会をつくることで新しいコミュニケーションや関係構築の場をつくることができる

具体的な取組みアイデア

- 小学校の環境学習や名桜大学などの教育プログラム、21世紀の森公園のライブイベントなど、さまざまなイベントと合わせてビーチクリーン活動を開催する
- 21世紀の森公園でさまざまなプログラムを開催する
- 夕日の名所、撮影スポットを整備し、SNS発信をする

想定される連携先

- 教育委員会（学習）
- 維持課（公園でのイベント・プログラム開催）
- 環境対策課（ビーチクリーン）
- 文化スポーツ振興課（文化スポーツプログラム、市民会館）
- 地域力推進課 ● GODAC etc.

③

背景

名護市は、海・山・川・文化と多くの魅力を兼ね備えているが、南部から北部への素通り観光といわれ、名護市内で来訪者に滞在してもらうための動機づくりや観光プログラムの開発が期待されています。

プロジェクトの概要

地域住民自身が自らのまちの魅力やライフスタイルに誇りを持ちながら、来訪者と出会い繋がる仕組みづくりを行います。地域の自然や文化、人の暮らしの視点を大切にする来訪者との関係を構築し、地域住民にも来訪者にも魅力的なまちを持続的に支えていく仲間を増やしていくことを目指します。地域情報においては地域住民自らが発信手法を学び、今ある資源を活かすことと併せて生活者視点の新しいニーズに対応した名護地域の魅力を発信します。

効果

- 来訪者が名護のまちを楽しんでもらえる、滞在時間を延ばすことができる
- 地域の人々にとって、まちの魅力の再確認することができる
- 来訪者と住民がつながるきっかけを生みだすことができる



④

背景

地域住民の生活習慣病が大きな問題となっている中、とりわけ40歳～64歳の働き盛り世代の健診受診率は極めて低く、子どものころから、健康づくりへの関心を高めるような健康教育に力をいれていく必要があります。また、医療や教育機関との連携を強化していくことへの期待も多く上げられました。

プロジェクトの概要

名護地域では小中学校からの健康教育に力をいれるとともに、名桜大学の研究を活かした健康なまちのモデル地域を目指します。食生活の改善や地域での健康づくりに取り組みやすい環境整備や地域住民の「健康づくり」への意識の醸成をはかります。個人の医療診療情報を見える化することで、子どもの頃から自らの健康に関心をもち、健康づくりを当たり前のものとし、楽しく健康づくりの取組みを発信します。



具体的な取組みアイデア

- ベンチなどの休憩スペースの設置や道路わきに花を植えるなど、思わず歩きたくなるまちにする仕掛けづくり
- 日常生活で自転車を使いたくなるプログラムづくり
- 教育機関と連携した健康づくりプログラムの取り組みの展開
- 自治公民館を拠点とした健康づくりの取組みの展開

具体的な取組みアイデア

- コミュニティバスを観光客も使えるようにするなど、福祉施策と連携した移動手段の確保
- まちを歩くだけで歴史・文化を知ることができる、歩いて楽しめるプログラムの開発
- 名護の魅力を発信する「いいとこどり名護」の企画・編集

想定される連携先

- 地域経済部
- 文化課
- 博物館
- 企画政策課(移動手段)
- 観光協会(まちなかガイド、ホテル)
- 通り会
- etc.

効果

- 歩く、自転車で走る、孫と出かけるなど思わず取り組める仕掛けをつくることで、楽しく健康づくりに取り組むことができる
- 年に1回の健康診断のときだけではなく、健康づくりを日常的に意識することができる
- 名桜大学との連携により、名護地域の大人から子どもまで多くのデータ解析が可能となることから、改善すべき生活習慣が特定することができる

想定される連携先

- 教育委員会
- 健康増進課
- 都市計画課
- 企画政策課
- 地域力推進課
- 観光課
- 北部地区医師会
- 名桜大学
- etc.

1 地域の現況

屋部地域は市街地の西部に位置し、北の嘉津宇岳・安和岳・八重岳の峰々は自然環境保全地域として沖縄の貴重な自然が残され、東西に流れる2つの屋部川は、下流域の屋部川にじ公園（屋部親水公園）から南の名護湾へと注がれ、昔から風光明媚な地域として知られています。

屋部地域の行政区は7区あり、宇茂佐・屋部・山入端・安和は名護湾に面した海岸線の美しい集落に位置し、勝山・旭川・中山は緑豊かな中山間の集落として、シークヮーサー・パイン等の果樹や、ゴーヤー等の野菜を中心とした農業が盛んな地域でもあります。

特に、近年は山手側の国道449号の開通に併せて、宇茂佐第2土地区画整理が進み、宇茂佐区と屋部区の2区は人口も1万人を超えるなど著しく人口が増加し、活気あふれる地域として発展を続けています。

一方、他の区は少子高齢化が進むなど、地域の二極化が課題となっています。



2 地域のありたい将来像

屋部って?屋部って!

力コを探る・イマを創る・
ミライを拓く七色スパイラル



屋部地域は、昔から地域の繋がりが強く、伝統文化の継承や地域での子育て支援につながっています。今後、若者や新たな住民との交流や連携をしていくことも期待されています。特に、子育て力（郷土教育等）、発信力（魅力）、交流力（ヒト・もの・情報）の3つの視点で屋部川七色にじまつりのように、七色（7区）が今後主体的に取り組むことで、七色の好循環スパイラルが相乗効果として生まれることを目指します。

また、屋部の郷土、地域性、地域活動、商工・産業・観光面など、地域の様々なことを知っている、新しいことを起こしている、成している、屋部を愛している人をひっくるめて「屋部って」と表現し、そういった住民が増えていくことを目指します。将来像には、10年後に向けて過去を大事にしつつも、いま市民の力で創り、地域の未来に向かって新しい風を起こして、挑戦していくという意味で「破っている！」という2つの意味が込められています。

3 まちづくりの方向性

1 シマづくりの子育て環境

地域のありたい姿

- 子どもの時から地域づくりに関わることができる環境
- 子どもたちに地域の良さを伝える教育の充実

取組みの方向性

- 地域住民一人ひとりの強みや個性の活用
- 地元食材を使った食育の推進

2 安全・安心なシマづくり

地域のありたい姿

- 老後を地域で楽しむ・学べる生きがいのある地域
- いざという時に助け合う地域

取組みの方向性

- 役割と自己実現のある地域活動や交流づくり
- 防災マップ・バックなどのツールを用いた自主防災教育と組織の立ち上げ

3 地元資源の魅力創出・活用

地域のありたい姿

- 地域が稼げるローカルビジネスの活性化
- 地元資源の魅力化

取組みの方向性

- 地域資源（海・山・川、シークヮーサーや屋部寺等）
- 地域の人による地元資源の活用

4 地域の魅力発信

地域のありたい姿

- 伝統行事やイベントを通じた地域外の人との交流
- 若年層に向けた地域の情報・魅力発信

取組みの方向性

- 気軽に交流できる機会と、つなぎ役となるファシリテーターの育成
- 若年層の情報発信組織の立ち上げ

4

重点プロジェクト

屋部七色地元愛醸成プロジェクト

背景

屋部7区には、史跡や名所、農作物、地元企業など、誇れる地域資源がたくさんあります。地元の人々がそれらの資源を地域の宝として再認識し、地元愛がより一層醸成されるような取組みが求められています。



プロジェクトの概要

屋部7区が、それぞれ地域への愛着とつながりが深まるようなプロジェクトの企画立案を行います。地域の良さを語り合う場の創出や、屋部の魅力を共有する住民による住民のための講座の開催、地域資源を生かしたグッズやプログラムの開発などを行います。

効果

- 地元住民自らが資源探しを行い、地域の宝として再発見できる
- 地域の見方が変わり、自分の地域に誇りと愛着を持つことができる

2

屋部七色情報発信プロジェクト

背景

海開き、ゴーヤーまつり、勝山シークヮーサー花香り祭、地域の御願（豊年祭等）など、屋部地域には年間を通して多くのローカルな行事が行われています。また、海・山・川などの自然にも恵まれ、隠れた地域の魅力が多い場所であり、地域の魅力を再発見・発信することが期待されています。



プロジェクトの概要

屋部地域の魅力を、住民、来訪者の様々な世代に合わせて、住民を中心となり発信していくプロジェクトです。SNS等を活用した発信のみならず、産・官・学・地域連携のもと、参加型で情報発信の方法や、コンテンツの検討を行い、地域内外に情報発信できる仕組みを構築します。情報発信を通して、参加者同士の取組みを推進し、誰もが屋部地域の地域づくりに参画できる仕組みをつくります。

具体的な取組みアイデア

- 地域の魅力を共有できる「語り場」
- 地域の生活にスポットをあてたローカルウェブメディアの立ち上げ
- 魅力発信プログラム（オープンガーデンなど）の企画開発、寄付等継続運営の仕組みづくり

想定される連携先

- 地域力推進課
- 公民館
- 社会教育団体
- etc.

効果

- 改めて地域の魅力を知ることで、地元への愛着・誇りを育む
- 地域外出身者が地域づくりに参画する、しやすいきっかけとなる

想定される連携先

- 地域経済部
- 屋部支所
- FMやんばる
- 名桜大学
- 市内高等学校
- 観光協会
- etc.

背景

屋部地域は、昔からシマ（地域）の子育てに熱心な地域です。海・山・川があり、農業から産業まで様々な仕事がある屋部の特性を生かした、子どもたちの「生きる力」を養うための独自性のある授業や体験活動が期待されています。



プロジェクトの概要

子どもたちが地域を愛する社会人として自立していくことができる「生きる力」を養うための取組み・仕組みづくりを行います。具体的には、地域の郷土芸能である豊年祭等の文化継承をする授業や、地域の農作物・特産品を活用した食育体験プログラムなどです。他にも海・山・川や地域内の施設など地元の資源を生かした体験活動（自然・環境教育など）や、住民の人生を子どもたちに語ることで地域愛を育むプログラム等を学校と連携して行うことを目指します。これらを行うことで地域ならではのキャリア教育の充実を図ります。

効果

- 子どもたちが地域の魅力や伝統芸能、農作物などを体感しながら学ぶことで、地域への愛着、生きる力を育む
- 大人の自分史を知ることで、自分の将来像や進路などを考えるきっかけをつくり、キャリア教育につなげる
- 恵まれた屋部の自然環境を知り、環境保全活動や活用について子どものころから考える素地をつくる

具体的な取組みアイデア

- 屋部地域の仕事づくり
- 資源を知る屋部版ヒューマンライブラリー
- 豊年祭等伝統文化の継承授業
- 地元食材を使った食育
- 学校と地域住民による授業の企画や連携（PTCA）

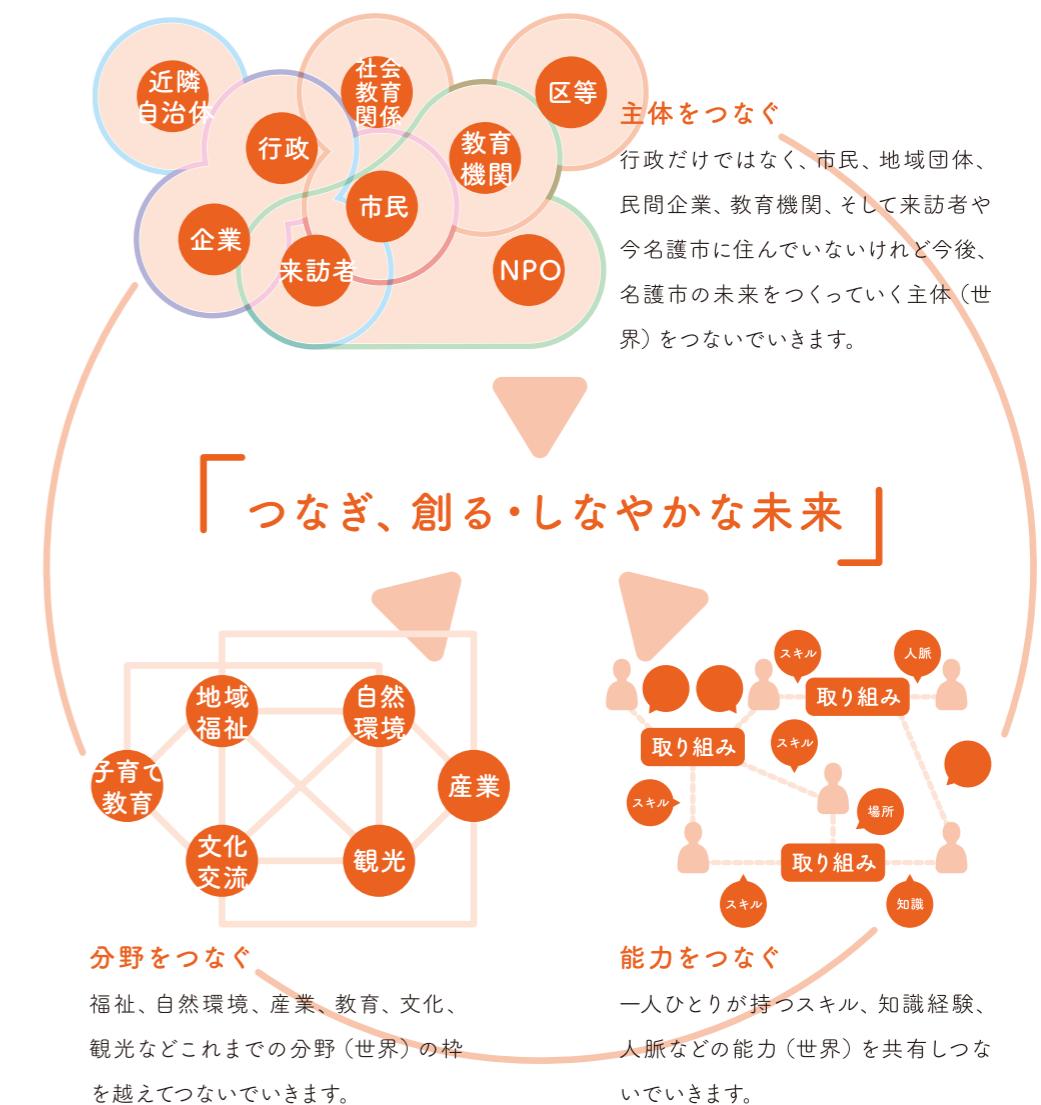
想定される連携先

- 教育委員会
- 小中学校
- 公民館
- 青少協屋部支部
- PTA
- etc.

column 1

つながりの道しるべ

第5次名護市総合計画は、名護市民をはじめ名護市に関係する全ての人々を対象とした計画です。そのため、総合計画では「市民参加」と「つながり」を特に大切なキーワードとして位置づけ、計画内容とともにまちづくりのプロセス「つながりの道しるべ」を示しています。地域別計画を見て何かやってみたいと思っても1人で行動に移すのは難しいと思います。時に、少数でできることもあるれば、多くの人とつながることで大きな活動ができます。周りの人や行政、地域の人、または今はまだ出会っていない人たちとつながり、実行に移すための道しるべです。その方法についてコラムで紹介します。



1 地域の現況

羽地地域は名護市の北に位置し、羽地内海や、川、水田、ダムなどの水資源を有し、山々に囲まれた自然豊かな地域です。また、広大な農地があり、古くからターブックワ（米どころ）と言われ農業の盛んな地域です。多様な地域資源を有する農村集落が分布し15の区があります。それぞれの区に特色があり豊年祭をはじめとする様々な行事を通して伝統文化を継承しています。また、羽地地域には「シチマンタル（さあやるぞ！）」という地域の誰もが知る代表的な言葉があるように、地域で力を合わせて取り組んできた歴史があり、地域や人のつながりを大切にしてきた地域です。一方で、高齢化による担い手の不足が課題となっており各分野の次世代の担い手づくりや交流が求められます。



2

地域のありたい将来像

シチマンタル

羽ばたけ地域の宝物
つながり育む地元愛



「シチマンタル」は「さあやるぞ！」の羽地地域を代表する言葉です。

羽地地域は、豊かな自然、伝統芸能、文化があり、温かみのある地域です。

15区それぞれに特色があり、魅力があります。

羽地の人誰もが知る「シチマンタル」の精神で、羽地の宝物（自然、伝統芸能、特産品等）を内外に発信し、住む人の地元愛を育み、地域内で良い循環を生み出していくます。

3

まちづくりの方向性

1 暮らし

地域のありたい姿

- 農業の盛んな地域
- 豊かな自然を残しつつ、元気な地域
- 若者の仕事があり、若者が活躍できる地域

取組みの方向性

- 羽地の産業を応援し、働く場を増やす
- 地域の生産物を活用した商品の開発
- 水田を生かした観光産業の創出
- 星空観察、花による地域活性化

2 安全・安心

地域のありたい姿

- 防災意識が高い地域

取組みの方向性

- 一人ひとりの防災意識の向上
- 人と人とのつながりによって災害に対応
- 自主防災組織の立ち上げを推進
- 消防団の体制強化

3 つながり

地域のありたい姿

- 出身者が戻ってきやすい地域
- 支えあう地域
- 伝統を大切にする地域

取組みの方向性

- 家族で区の活動へ参加しやすい雰囲気づくり
- 地域で子育て支援ができる仕組みと体制づくり
- 老若男女問わず地域の人が交流を持てる
- 子どもの芸能活動を支援
- 平和学習の推進
- コミュニティ施設（公民館等）に足を運びたくなる取組み

重点プロジェクト

背景

地域別ワークショップやカフェイベントを通して、農業や観光のあり方、それに伴う仕事づくりについて多くの関心が寄せられました。出身者が帰ってきやすく、若者が活躍できる地域づくりを実現するために、ダム・川・田・羽地内海などの豊かな水資源を活かした新たな取組みが求められています。



プロジェクトの概要

農業をはじめとした産業の活性化とともに、豊かな水資源を活用した新たな産業の創出に取り組みます。また、田植え体験や泥遊びなど、農業を身近に感じるプログラムの実施や花見イベントの実施などの観光として利活用を促進します。

効果

- 生み出された特産品や名所などを地域ブランドとして位置づけることができる
- 地元の人人が自慢となる地域資源を生み出すことで、地元への愛着を育むことができる
- 地元出身者が帰ってきやすい環境を整えることができる

具体的な取組みアイデア

- 新たな特産品(米・卵・鶏・お茶など)の開発
- 名所(桜・サガリバナ・コスモス・水車など)づくり
- 羽地ならではの日本一を目指す取組み

想定される連携先

- | | |
|--------------|-------------|
| ● 農林水産部 | ● 地域経済部 |
| ● 企画政策課 | ● 商工会 |
| ● 観光協会 | ● 羽地の駅 |
| ● 羽地振興会 | ● 羽地ダム |
| ● 羽地ネットワーク | ● 羽地民泊推進協議会 |
| ● JAおきなわ羽地支店 | etc. |

2

子育てと地域のつながりプロジェクト

背景

地域での子育てや、お年寄りや子どもの居場所づくりへの関心が高く、コミュニティ施設(公民館等)を中心にその場所や機能を有効活用し、若者・移住者・来訪者との関わりも含めた世代間交流の取り組みを充実させることが求められています。



具体的な取組みアイデア

- 気軽に参加できる「ゆるさ」を大切にしたコミュニティ施設(公民館等)を活用するためのルールづくり
- コミュニティ施設(公民館等)のサポーター(大学生、子育て世代ではない地域の人たち)の募集
- 子育て世代などがコミュニティ施設(公民館等)の活動を知るきっかけづくり(地域子育て事業を公民館で開催など)
- 魅力あるプログラムの開催(子供向けと大人向けのプログラムを同時開催など)

効果

- 世代間が交流の機会をつくることができる
- 地域で子育てをサポートすることができ、子育て世代が安心して地域活動に参加するきっかけができる
- 子どもたちが安心して遊べる場ができる

想定される連携先

- | | |
|--------------|--------------|
| ● 教育委員会 | ● 子ども家庭部 |
| ● 青少協羽地支部 | |
| ● 名護市北支部体育協会 | |
| ● 小中学校 | ● 老人クラブ etc. |

3

地域の記憶を伝えつなぐプロジェクト

背景

羽地地域は1960年、「チリ地震」による津波の被害を受けています。また、豊年祭や村踊りなどの伝統芸能も盛んな地域です。このような「地域の記憶」を後世に伝え残していくことを大切にする地域であり、それが郷土愛を育みます。



プロジェクトの概要

伝統芸能に関わることを地域で支え、地元愛を育み、継承を促進します。また、若者・移住者・来訪者にとっても訪れやすい地域行事等を行い地域への協力者増加を図ります。地域の災害経験について知る活動や一人ひとりの防災意識を高めていくためのプログラムに地域で参加します。常日頃から地域の人同士の声かけを行う見守り体制の確立をするとともに、羽地の戦争の記憶を継承し、子どもたちや地域の人が平和を学ぶ機会を創出します。

効果

- 多世代交流の機会をつくることができ、高齢者の役割を生み出すことができる
- 伝統芸能を次世代に伝え残すことができる
- 身近な人から地域の歴史を学ぶことができる

具体的な取組みアイデア

- 次世代へ伝えるために伝統芸能のアーカイブ化
- 気軽に楽しく伝統芸能や防災に触れるための新たなプログラムづくり
- 地域の人から災害や戦争体験など「地域の記憶」を学ぶ語りべ会

想定される連携先

- | | |
|------------|-----------|
| ● 消防本部 | ● 文化課 |
| ● 総務課(総務部) | ● 消防団羽地分団 |
| ● 青少協羽地支部 | ● 小中学校 |
| ● 羽地支部区長会 | etc. |

column 2

主体をつなぐ

行政だけでなく、市民、地域団体、民間企業、教育機関、そして来訪者や今名護市に住んでいないけれど今後、名護市の未来をつくっていく主体(世界)をつないでいきます。

● ダイアグラムの活用

基本計画では、取りまとめた基本施策を推進するために、どのような主体がどのようにつながり実行していくかを、施策ごとにダイアグラムで示しています。何か活動を始めたいとき、その活動にはどんな人や団体が関わっていいかを考えることが大切です。そのような主体を書き出し、関係を整理し、ダイアグラムを作成してみましょう。お一人でもできますが、何人かで集まって考えてもいいでしょう。そして、作成したダイアグラムに表示された人や団体に声をかけ、つながりを広げてみましょう。さらに、活動のさまざまなタイミングでダイアグラムを見直してみると、新たな「つながり」を発見できるかもしれません。

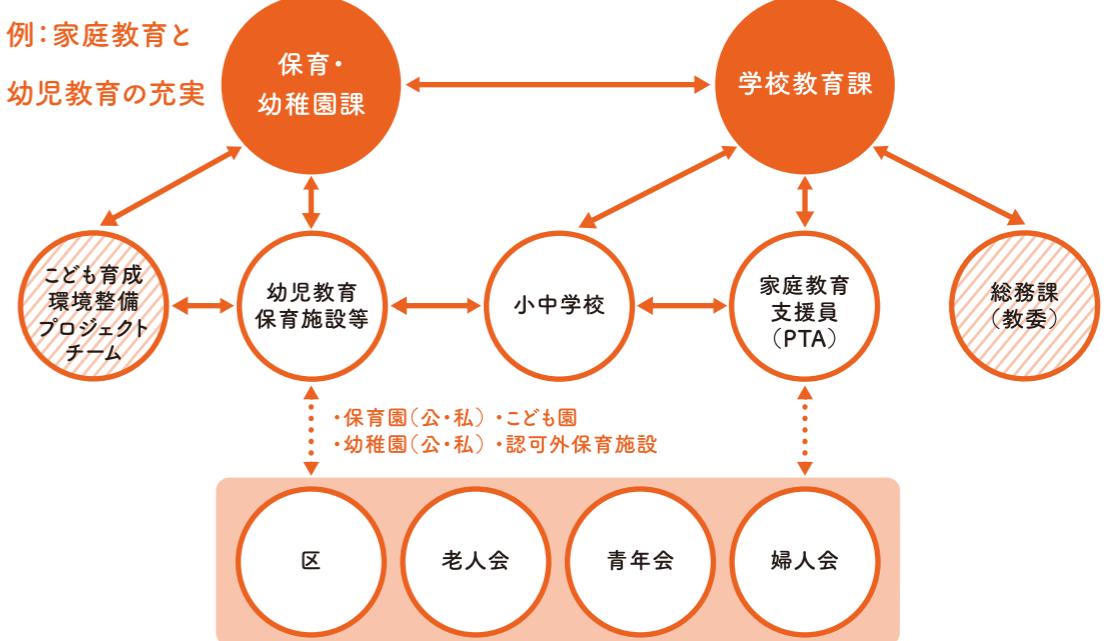
● ダイアグラムの作成　・ 庁内合同ワークショップの手順　・ ルール(凡例)づくり



関係する主体をふせんに書き出す



主体同士の関係性を矢印や線でつないでいく



凡例
↔ 双方向の情報提供や連携を取り組んでいるもの
➡➡➡ これから連携を強めたいもの
➡➡➡ 特に一方からの情報提供や連携の投げかけが主となるもの

↔ 施策の中で常につながっているもの
● 主担当課
○ 関係課(名護市)
○ 関係している民間団体・企業

1 地域の現況

東海岸の北側に位置する10区は、美しい海岸線とやんばるの森を有しています。平地は少なく、地域の大半が農地・森林を中心とした丘陵地となっています。低地部に点在し国道331号につながれた10か所の集落はいずれも小規模であり、農業等を中心とした生活が展開されています。一方、カヌチャ地域は観光振興地域に指定されていることから、体験・滞在型の観光施設等も立地しています。東海岸南側に位置する3区は、新たな都市機能の導入と住宅地づくり、生活基盤の整備、金融・情報、産業、教育・研究等の多分野にわたる企業立地等が進められています。

3 まちづくりの方向性

1 自然

地域のありたい姿

- 豊かな自然を守りながら活かす

取組みの方向性

- 環境保全ルールの整備
- 自然を守り活かすイベントの開催
- 子ども達を対象としたイベントの開催
- ガイドの養成

2 子ども

地域のありたい姿

- 地域を知り、誇りに思う子ども達を増やす
- 子どもの学びを応援する
- 安全・安心に過ごせる子どもの居場所をつくる

取組みの方向性

- 各区における子どもの居場所づくり
- 地域の人材、企業、学校等と連携した学ぶ環境づくり
- 学校を開放し交流できる場に
- コミュニティ・スクールとの連携強化

3 暮らし

地域のありたい姿

- 防災に強い地域づくり
- 地域行事の活性化
- 空き家の利活用
- 移動手段のない住民の不自由を感じさせない暮らし

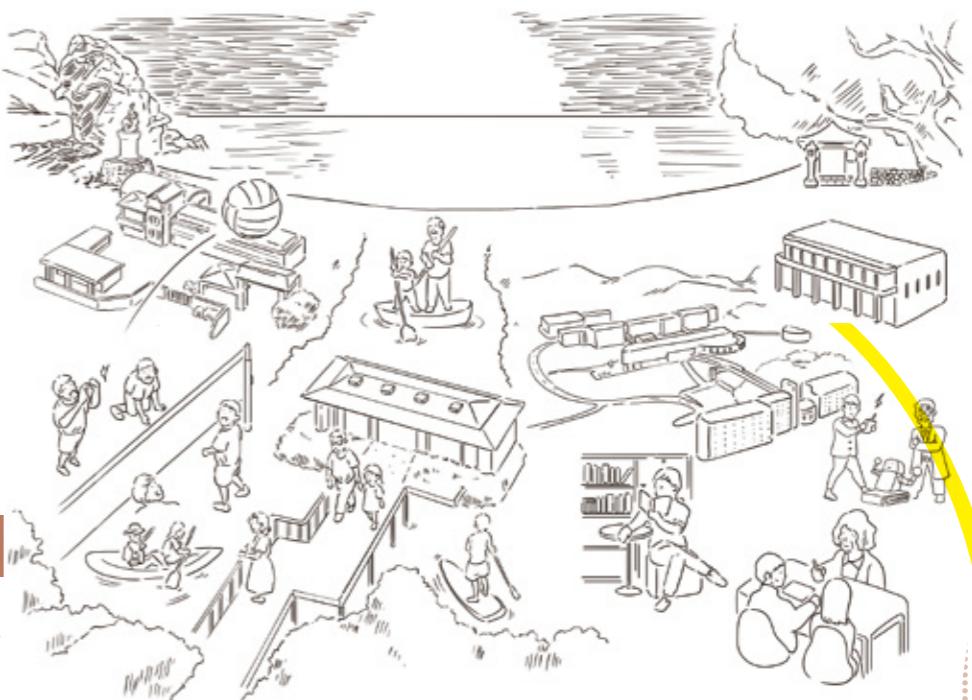
取組みの方向性

- 地域・学校・企業等合同での防災活動・訓練
- 防災を楽しく学ぶイベントの開催
- 各区、企業及び学校等が連携した地域行事・伝統行事の実施
- 空き家を活用した新規事業の展開
- わんさか大浦パークや共同売店による買い物支援

2 地域のありたい将来像

日昇るまち

久志から輝く
明るい未来



久志地域は、名護市で唯一東海岸に面し、朝陽が昇る地域です。自然に恵まれたこの地域に住む人々は、伝統文化を継承し、地域に誇りと愛着を持って暮らしています。名護市が次の輝かしい50年を歩みだすにあたって、名護市で唯一太陽が昇る久志地域全体が先頭に立って魅力ある地域をつくっていくことで、名護市全体の輝く明るい未来を引っ張っていくという希望を込めました。

4 産業

地域のありたい姿

- かっこいい稼げる農業

取組みの方向性

- ブランド化
- 体験型農業の展開
- 地元の人が関わる新たな商品の開発
- コミュニティビジネス
- 起業支援

5 つながり

地域のありたい姿

- 若い人達が区の行事へ積極的に参加する地域
- 久志地域に関わるすべての人がよってたかって関わる

取組みの方向性

- わんさか大浦パークの交流拠点機能の充実
- 国立沖縄工業高等専門学校、GODAC、マルチメディア館及びみらい1~5号館との連携

背景

地域別ワークショップやカフェイベントを通して、子どもたちが安心して学び、遊べる居場所や、地域に密着した交流拠点について多くの関心が寄せられました。コミュニティスクールとの連携強化や、教育の場・機会の充実など、地域での子育てを通した交流の場づくりが求められています。



プロジェクトの概要

地域・学校・企業が連携し、子どもやお年寄りなど住民の居場所・学ぶ場づくりを目指します。空き家の活用や学校施設の開放などによる地域の交流拠点の整備、また、地域の中だけでなく、異世代のシェアハウス（高齢者と大学生）やワーキングステイ（定年留学やママ留学）など、さまざまな取組みを通して、県外・海外など多様な交流の機会やネットワークづくりを図ります。

効果

- 地域での暮らす楽しみを醸成し、多世代が交流できる機会をつくることができる
- 情報と人が集まる場をつくることにより、住民同士が交流しやすくなる
- 子どもたちが安心して過ごし、遊び、学べる場となる

2

豊かな自然を学びながら活かすプロジェクト

地域別ワークショップやカフェイベントを通じて、久志地域の豊かな自然への関心は高いが、その価値が活かしきれていないという意見も多くあがりました。地元の人がその価値を知り、それを守りながら活用していくことが求められています。



プロジェクトの概要

豊かな自然や地域の文化を地域の人自身が学びながら、世代や地域を超えて地域の自然を活かす活動を生み出すプロジェクトです。地域の海・山・川・史跡などを散策できるようなコースの開発や、ガイド育成などに取り組みます。また、学校や高専などの教育機関と連携し、地域の人から子どもたちに自然や地域の文化を伝えるとともに、地域をキレイに保つための清掃活動などを展開し、教育の場や機会の充実を図ります。子どもを通してその親世代へと広げていくとともに、地域資源を活用した事業としての展開にもつなげます。

効果

- 地域の自然体験事業者のプログラム開発などが進み、観光資源が充実する
- 継続的に自然に触れる、体験する、学ぶ場を用意することで、地域への誇りと自然を維持していく行動を促進することができる

具体的な取組みアイデア

- 自然資源をよりよく活用できるように、保全と活用ルールを地域で策定し環境整備をすすめる
- 働き世代が子どもと一緒に参加できるなど、地元向けの魅力的な自然体験プログラムの開発

想定される連携先

- 小中学校 ● 沖縄高専
- GODAC ● ヒューマンキャンパスアカデミー
- 久志地域交流推進協議会 etc.

背景

わんさか大浦パークは地域の拠点として人々に親しまれています。地域に密着した交流拠点機能や生活を支える拠点となる機能など、地域に密着したさらなるサービスの充実が求められています。また、地域別ワークショップやカフェイベントを通して、病院、買い物支援など、生活支援の充実に多くの関心が寄せられました。わんさか大浦パークの機能をさらに充実させていくとともに、その他、共同売店などを連携した、地域の支え合いのしくみづくりが求められています。



効果

- でかけなくても必要なものが身近で手に入るしくみができる
- わんさか大浦パークの集客につながる
- ゆんたくの場が地域の中に増えることで、見守りの役割も果たすことができる

具体的な取組みアイデア

- 共同売店でインターネットでの購入の代行を行う
- わんさか大浦パークを産業の拠点にしていく
- 地元企業と連携して、資源や人材などを提供してもらえるようなしくみづくりのための話し合いの場をつくる
- ローカルビジネス、コミュニティビジネスの起業に関する相談窓口を設置する。将来的には講座など学ぶ機会をつくる

想定される連携先

- 地域経済部 ● 久志支所
- 企画政策課 ● わんさか大浦パーク
- 共同売店 ● 商工会 etc.

column_3

分野をつなぐ

福祉、自然環境、産業、教育、文化、観光などこれまでの分野(世界)の枠を超えてつながります。

● プロジェクトチームの立ち上げ

今回の総合計画の策定には、名護市職員公募による策定チームを結成し、さまざまな分野を担当する職員がチームで関わりました。「主体でつなぐ」で紹介したダイアグラムで表されるように、どんな活動でも、異なる領域やさまざまな立場の方が関係してくるでしょう。それらの垣根を越えて、協働していくことが必要です。そんな視点で声をかける人や団体を考えてみることも、大切なポイントになるでしょう。



様々な分野の人を集めてチーム化



地域別ワークショップでは、職員がグループファシリテーターを務めた



全地域で集まり、地域を超えて意見交換

● テーマカードの活用

立場や分野も違う人々が集まり、それぞれの垣根を超えて一緒に活動していくためには、話し合うテーマや内容を可視化できるようなツールの活用が有効です。例えば、総合計画策定プロジェクトではテーマカードを活用しました。区長や地域で活躍している主体へのヒアリング結果をカード化したものです。ワークショップでテーマカードを使って意見交換し、カード内容を修正・更新しながら、地域の将来像を検討していました。カードを使うことで、複数のテーマを同時に話し合うとともに、さまざまな分野の話題につながっていました。



ヒアリングをもとに作成したテーマカードを使い、話し合いを深めていった



カードをカフェイベントで展示。多くの市民に共感するものにシールを貼ってもらった



話し合いの結果から、カードの内容を更新しビジョンをまとめていった

3

まちづくりの方向性

1 地域資源の活用

地域のありたい姿

- 豊かな自然・文化を守り、生かし次世代に継承する島

取組みの方向性

- 青年会の継承など伝統芸能の後継者育成
- 行事の簡素化やアーカイブ化による伝統行事の保存と維持
- 持続可能な環境保護に繋がる取組みの実施
- 空き家を活用した地域のにぎわいづくり
- 屋我地中学校跡地を活用した拠点づくり
- オランダ墓や塩田等を活用した周遊・体験の場の創出
- 海を活用した体験学習プログラムの充実

2 安全・安心な生活環境づくり

地域のありたい姿

- 誰もが楽しく安心安全に暮らせる島

取組みの方向性

- 屋我地島では独自の交通ルールを設ける等交通渋滞を減らす取組
- コミュニティバスを活用したお年寄り等の移動手段支援
- 一人暮らしのお年寄りをみんなで見守る取組み

2

地域のありたい将来像

懸け橋となる島

島の自然の中で
それぞれの暮らし方



屋我地島は穏やかな羽地内海と東シナ海を有し、陸域とその周辺の海域は国指定の鳥獣保護区に指定され、海岸にはマングローブ林や白い砂浜を有するビーチが存在する自然豊かな島です。自然豊かでゆっくりとした島時間が魅力となり、移住者も近年増加傾向にあります。屋我地島には3つの橋が架けられており、交通アクセスがよい地域です。屋我地島を訪れる方は増加傾向にあり、修学旅行生等を受け入れる民泊や古民家を活用したカフェなど「地域の方との交流」も増えてきています。また、特色ある教育内容が魅力の「屋我地ひるぎ学園」に通う島外の児童生徒や地域の高齢者の移動支援としてコミュニティバスが運行されています。めざすべき将来像には、屋我地島に架けられた3つの橋には「自然」と「人」「こどもたちの未来」が重なっており、それぞれの架け橋となる島でありたいという願いを込めて、地域のありたい将来像を設定しました。

3 持続可能な産業の創出や交流の促進

地域のありたい姿

- 農業と観光が結びついた産業など、持続可能な新しい仕事が生まれる島
- 地域に子どもや若者があふれ活気のある島

取組みの方向性

- 農作物の安定した販路の確保
- 風景や夜空などの自然環境や農業体験を活かした新たな観光産業づくり
- 若者や島外の子どもたちも参加・交流しやすい地域の行事づくり
- 区へ加入するメリットの発信

重点プロジェクト

1

背景

屋我地島を盛り上げる取組が実施されていますが、島の地域づくりを一部の人だけで行うのではなく、住民みんなが参加することが求められています。

また、近年、来訪者や移住者にとって屋我地地域の豊かな自然環境や文化が魅力的な資源であることがわかつてきました。一方で地域の魅力と課題を住民自身が捉え直し、互いに学び合える場が求められています。

プロジェクトの概要

島の日常の暮らしにフォーカスをあて、今後想定される移動支援や防災、交通渋滞、島の子どもたちが「大人になった時、帰ってきたい」島づくり等の課題を、住民の対話で解決していくプロジェクトです。課題と解決のプロセスを見える化し、島の子どもたちも含めて島民一体で必要な取組みを考え、実現させていきます。

効果

- 住民自身による地域の課題解決の機運が高まり、地域への愛着を育む
- 多世代やプレ島民の参加を促すことで、多様な交流が図れる
- 取組の実現を重ねることで、住民自治による地域づくり見える化することで、多世代の参加と子どもたちの島愛を育む



2

背景

若い世代の定住を後押しする、時代にあった新しい仕事づくりとその基盤整備が期待されています。

プロジェクトの概要

海を中心とした体験学習型のプログラムの開発や、住民のスキルや知識を共有しあう交流兼生涯学習プログラムなど、来訪者にとっても市民にとっても屋我地地域の魅力を発見・学ぶ機会となり、環境保全や資源の活用、伝統文化の継承につなげていくプロジェクトです。そのほか遊休農地や農業を活用し、若者の定住促進につながる産業の創出を目指します。



具体的な取組みアイデア

- 遊休農地を利用した市民農園で農を中心とした体験プログラムづくり
- 地元の人のスキルや自然環境を生かしたプログラムづくり
- 自然そのままを生かした夜の新たなアクティビティづくり
- 屋我ラムやひるぎ山羊など地域の農作物のブランド化

効果

- 地域の方と交流できる交流型観光など、島ならではの時間が楽しめる新たな観光産業を創出する
- 自然環境の現状を知り、環境保全や利活用についての意識を高める
- 若い世代が地区内で生活・仕事ができる環境を整え、移住・定住を促進する

想定される連携先

- 地域経済部 ● 農業政策課
- 商工会 ● 観光協会 etc.

名護地域　屋部地域　羽地地域　久志地域　屋我地地域

3

背景

進学等を契機とした島外への人口流出や少子高齢化による定住人口の減少という課題を抱える一方、人口減少によって増加した空き家や遊休農地の活用は停滞している現状があります。空き家の移住者用の住宅や住民の交流の場としての活用、遊休農地や公共施設および跡地を地域の新たな拠点や事業での活用など、空きスペースの利活用に多くの期待が寄せられています。



プロジェクトの概要

空き家、遊休農地、公共施設の跡地等の活用アイデアを考える話し合いの場をつくり、実現に向けての手続き支援等を住民と行政が連携して取り組むプロジェクトです。(空き家を地域のコミュニティースペースに活用することで、支え合いのネットワークづくりと多世代の交流を生み出します。さらに移住や新規就農等を検討している「プレ島民」とのマッチングや市民との交流を図ります。)

効 果

- 住民・利用者視点の公共空間の活用が期待される
- コミュニティースペースとして空き家等が活用されれば、高齢者や独居者、移住者等の交流が推進される。独居などコミュニケーションが減っている高齢者の交流の場になる
- 移住者、定住者の住宅支援につながる

具体的な取組みアイデア

- 屋我地中学校跡地活用を市民参画で検討
- 行政と連携した組織による空き家の調査・管理・活用
- 空き家や公共施設を活用した高齢者や独居者のコミュニティースペースづくり→(P.33②)について考える話し合いの場づくり
- 合同墓・合同シーミー祭→(P.33②)

想定される連携先

- 屋我地支所 ● 地域力推進課
- 企画政策課 ● 建築住宅課 etc.

column_4

能力をつなぐ

一人ひとりが持つスキル、知識経験、人脈などの能力(世界)を共有しつないでいきます。

● キャラバン形式のワークショップ

よってたかってゆんたくでは、地域別にワークショップを開催し、キャラバン形式でまわっていきました。また、多くの市民の方に総合計画策定の取組みを発信し、その想いを集めため、ショッピングセンターやイベントなどの場所に出向き、より多くの市民の声を集めました。参加のバリエーションを用意し、より多様な参加を促していくことが活動を継続していくために大切です。



屋我地支所での第1回よってたかって
ゆんたくの様子



さくらまつり会場での展示の様子



名護地区はファーマーズマーケットや
んぱる市場にてカフェイベントを実施

● つながりカード

アイデアを実現するためには実施する主体が必要です。総合計画では、つながりカードを使い、アイデアを実現するために自分に何ができるか、協力してくれる人や関わってほしい人を、それぞれの具体的なつながりから出し合いました。つながりカードのようなツールを使って、一緒に活動したい仲間とそれが何ができるか、また、足りない部分を協力してくれる人や関わってほしい人を具体的に共有することで、取組みがぐっと進展することがあります。



取組みを具体化するために必要な
つながりをカードを使って整理して
いった



つながりカードに書き出している様子



つながりカードを使って、つながりを可視化していく

計画を進めていくために 活動の充実やつながりを広げよう

1



やりたい！やってみたい！

地域別計画の重点プロジェクトは、みんながそれぞれ得意なこと・できること実践していくことで実現を目指していきます。「このプロジェクトで私はこんなことをやってみたい」ということがあれば、取り組んでみましょう。

2



地域コミュニティ、他団体、支所、 関連部署と連携する

プロジェクトを進めていくときに、どのような仲間が必要か、どのような所と連携したいかをダイアグラムをつくって考えてみましょう。(ダイアグラムについてはコラム2参照)

関係団体に相談しながら、活動と一緒に取り組む仲間を増やし、体制を整えていきましょう。

3



活動を実践する

活動は最初から大きく行うのではなく、できるところから小さく始めていきましょう。

実際にやってみると、活動に対する反響や、次の課題など多くのことが見えてきます。

4



活動をふりかえる

活動した結果をふりかえり、その活動の成果はどうであったか、どのような課題があるのかを(ふりかえりシートなどを使って)整理していきましょう。関連団体などと整理した情報を共有することも大切です。小さな実践とふりかえりを重ねながら、少しづつ仲間を増やし、少しづつ活動をよりよいものにしていきましょう。

活動を
進めていく上での
困りごとやご相談に！

窓口・問合せ /

[名護地域] 地域力推進課 0980-53-5445

[屋部地域] 屋部支所 0980-52-2610

[羽地地域] 羽地支所 0980-58-1221

[久志地域] 久志支所 0980-55-8101

[屋我地地域] 屋我地支所 0980-52-8597

[全体・冊子について]
企画政策課 0980-53-1212
(名護市役所代表)

第5次名護市総合計画 地域別計画

つなぎ、創る・地域のプロジェクト

2020年3月発行

発行 名護市
住所 〒905-8540
沖縄県名護市港一丁目1番1号
電話 0980-53-1212(代表)

企画 studio-L
編集・文 名護市総合計画策定チーム
studio-L

デザイン 三枝俊輔
イラスト 塩原和也

